

カントの宗教

karinomaki

入院

私は、あるショッキングな出来事があった、八か月の間精神科に入院していました。私を助けてくれたのは、主治医の先生と看護師さん、そして、一生の友達ができたことでした。

宗教

哲学者のイマニュエル・カントはプロテスタントでした。しかし、キリスト教があまり好きではありませんでした。また、日蓮の法華経をすこしかじっていたそうです。法華経といいますと、創価学会ですね。

私は、宗教に入るつもりはありませんが魅力を感じたことがあり、創価学会の入決カードというものを書いたことがあります。それは、入る意志がなくても、破棄してもらいませんでした。この世界には、必ず宗教という救いが必要だからと感じたからです。

この世界には、秩序というものがあります。これは、宗教が全くないと、めちゃくちゃになってしまいます。なぜなら、数珠というものを考えてください。数珠は、糸という秩序でできています。これが切れると数珠はバラバラになりますよね？

また、写真もそうです。バラバラに撮った写真は、整理して区分けする必要があります。

しかし、私が精神科に入院したのは、ある女性の心の泥を目の当たりにしてしまったからでした。そのジオ製は、とても道徳的な人だったのです。

なぜ、道徳的な人が、宗教からかけはなれるような心を持つてしまうのか、道徳とは何か、宗教とは何かを書きたいと思います。

ある意味、その女性の心には、秩序がなく、ドロドロだったのです。それを見て私は発狂したのです。

モーツァルト

実は、私の発狂の原因は、その女性だけではありません。私は精神病患者で、幻覚に、カントとモーツァルトが現れます。主治医の先生は、死後の世界を否定されることと、私が病気であることを自覚させることで私を治そうとしてくださいましたが、私はやはり、カントとモーツァルトを信じて生きてしまいます。しかし、そのことで私の中に浮かび上がってくる、確かな秩序があります。私の病名は、「妄想型統合失調症」なのですが、天の秩序をこの二人が知っていて、私を動かしている気がしてならないのです。

中でも、モーツァルトの天才性は、悪魔のようなものです。私に、その女性の毒を徹底的に暴かせました。

私は、その女性追い詰め、入院となってしまいました。

判断力批判

カントとモーツァルトは友人同士のようなようです。私の中に入り、たくさんの文章を書かせました。しかし、私が宗教の可能性について書き続けた図を、退院前に、母は全て捨ててしまいました。私は、宗教はもうないと思いこみ、書いた図をあきらめ、あろうことか枕をつぶし、数珠をバラバラにしてしまいました。枕からは白い球がたくさんちらばり、数珠のようでした。しかし、私にとって、その、枕と数珠のつぶつぶは、亡き父や、死んでしまった犬の遺骨に見えました。

私は思いました。私を追い詰めた女性は、自覚がなかったのだ、この世に生きるには、頭を使って苦しみをつなぎ、何かを信じたいと思う、糸がなかった、だからあんなに醜いことが私にできたのだと。

それは、判断力批判について勉強すればわかることです。

モーツァルトは芸術家です。芸術は、構想力（想像力）の遊びだとカントは言っています。（判断力批判はカントの著書です。）しかし、遊びではなく、ぐるぐる巻きの中に、数珠をきちんとつなぐという、神業を成し遂げているのです。

たくさんものを考え、悩み、苦しく、そして数珠をつなぎ、遊んでいるという、神業が芸術なのです。

真っ直ぐの棒ではなく、ぐるぐる巻き、しかし、精巧な数珠が、芸術なのです。神社の美しい白へびのようなものです。いつしか、その、とぐろを巻いた白へびは、天にあがるのです。

女性の醜さ

私の入院の原因となった女性については、入院中S子さんという仮名で、fc2小説にいくつかのせました。私はガラホ（ガラケーのようなスマホ）を使っていましたので、パブーをお休みして、ガラホでも打てるfc2小説に打ちました。

S子さんの醜さは、並たいていではなかったです。カントの哲学は、S子さんと接してめちゃめちゃになりました。時空で立て直しても、まったく図はくずれ、天上のモーツァルトの世界しか私を助けられず、カントの幻覚中心だった私の頭は、モーツァルトに切り替わりました。

なぜなら、カントは絶対的に下から積み上げる人です。一方のS子さんは、カントが嫌ったキリスト教の悪いところを全部持った、徹底的な偽善者でした。うわべだけ美しく、私を心の奥で憎み、私をおとしめたのです。

みなさん、偽善は、モーツァルトもカントも、最も嫌うものです。

なぜなら、天才とは、泥さらいが好きな人だからです。

うわべのきれいさで、自分を美しいと思ってしまっは、天上へジャンプできないのです。

女性には、男性に美しく見られたいという、偽善があります。私はそのドロドロを、40才まで哲学しかしてこなかったのです、知らなかったのです。

とぐるを巻く

モーツァルトは、構想力で遊び、宗教なんかきらいだ、と言いました。しかし、ぐるぐると、とぐるを巻く、そして、それに秩序を与える糸を欲しがって、私の中に再びカントを呼びました。

モーツァルトはフリーメイソンという、宗教的な秘密結社に入っていました。苦しい、自分は悪い、でも救われたいと願うことから宗教は始まります。モーツァルトは決して構想力の中で遊んでいただけではなく、苦しんでいたのです。

新しい宗教

決して楽園に到達しない、でも楽しく上り続ける新しい宗教をカントは今、天国で探っているのかもしれない。しかし、S子さんのような偽善者を、宗教はどうしても作ってしまいます。S子さんは、宗教さえ信じていなかったのですが、最終的に、私を精神が狂っていると判断することで落ち着いたと思います。しかし、私は狂ってはいません。主治医の先生も、私の心の奥底に眠っている善良さをちゃんと見て下さり、私は退院しました。

しかし、この世は楽園ではないのです。美しい秩序の糸が必要で、私はそれをこの世界で見つけました。私にとってそれは、定期的に入院治療することです。職のない私が自分に課す秩序は、入院だったのです。

カントさん、上澄みだけきれいな、S子さんのような人をもう生み出さない、モーツァルトのように、ぐるぐるとぐるを巻いてもきれいな曲線を描き、いつしか天上に上っていくような、下積みからの宗教を、天国でどうか作って下さい。私は、その思いを病気でではありますがうけとめ、文章化していきたいと思います。